

教科	地理歴史	科目名	地理総合	単位数	2	開講対象 年次コース	1年次 必修
使用教科書		高等学校新地理総合(帝国書院) 新詳高等地図(帝国書院)					
副教材等							
備考(履修条件等)							

1 科目の学習到達目標

持続可能な社会づくりを目指し、環境条件と人間の営みとの関わりに着目して現代の地理的な諸課題を考察する。
 グローバルな視座から国際理解や国際協力の在り方を、地域的な視座から防災などの諸課題への対応を考察する。
 地図や地理情報システムを用いることで、汎用的で実践的な地理的技能を習得する。

2 学習の評価(評価の観点及び評価方法)

(1) 評価の観点

観点	趣旨
①知識・技能	世界の生活文化や防災、地域や地球的課題を理解し、地理情報を調べまとめる技能を身に付ける。
②思考・判断・表現	事象の意味や意義、特色や相互の関連を、地理的な見方・考え方を働かせて多面的・多角的に考察したり、考察したことを効果的に説明し、議論できる。
③主体的に学習に取り組む態度	グローバル化が進み、国際理解の必要性が増している現代において、地理的な事象に自らが関心をもって学習に取り組むことができる。

(2) 評価の方法(以下観点①～③は「(1)評価の観点」と対応する。)

観点	学習到達度の確認方法	具体的取組および重要度				
		授業	課題提出	考査	小テスト	ワークシート
①知識・技能	考査及び小テスト、ワークシート	○		◎	◎	◎
②思考・判断・表現	ワークシート、考査	○	○	○		◎
③主体的に学習に取り組む態度	授業に積極的に取り組むことができたか、課題への取り組み具合	◎	◎			○

以上を総合的に判断して決定します。(◎はより重視される観点)

3 担当者から

中学校地理の知識が身についている前提で進めるため、授業の進度は速くなります。しかし、興味関心が高ければ問題ありません。地理用語だけを暗記しても地理の学習になりません。「想像し考える」ことが重要です。予習よりも、授業で習った部分の復習に時間をかけて下さいとにかく授業を大切にしてください。

4 年間指導計画

月	単元	授業 時数	項目・学習内容	
4	オリエンテーション 地図と地理情報システム	5	オリエンテーション 地球上の位置と時差	
5		8	地球儀と地図 身の回りの地図 統計地図	
6		7	地理情報システムの活用 単元のまとめ 現代世界の国家と領域 国家間の結び付き 貿易によって結び付く世界	
7	世界文化の多様性と国際理 解 地球的課題と国際協力	5	大地形と人々の生活 変動帯と安定地域の人々の生活 河川がつくる地形と人々の生活	
8		2	海岸地形と人々の生活 単元のまとめ	
9		7	気温・降水と人々の生活 大気大循環と人々の生活 熱帯、乾燥帯、温帯、亜寒帯、寒帯の生活 単元のまとめ	
10		7	世界の言語・宗教と人々の生活 世界の産業と人々の生活 地球環境問題	
11		9	資源・エネルギー問題 人口問題	
12		5	食料問題 都市・居住問題	
1		自然環境と防災	4	日本の自然環境 地震・津波と防災 火山災害と防災
2			6	気象災害と防災 自然災害への備え
3		生活圏の調査と地域の展望 70	5	地理的な課題と地域調査 1年間の総まとめ
備考				

教科	地理歴史	科目名	地理探究	単位数	4	開講対象 年次コース	2年次 文系 選択
使用教科書		新詳 地理探究(帝国書院) 新詳高等地図(帝国書院)					
副教材等		新詳地理資料COMPLETE ニューコンパスノート					
備考(履修条件等)							

1 科目の学習到達目標

「地理総合」の学習によって身に付けた資質・能力を基に、系統地理的な考察、地誌的な考察によって習得した知識や概念を活用して、現代世界に求められるこれからの日本の国土像を探究する。

2 学習の評価(評価の観点及び評価方法)

(1) 評価の観点

観点	趣旨
①知識・技能	世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性、諸地域の特色や課題などを理解するとともに、地図や地理情報システムを用いて地理情報を調べまとめる技能を身に付ける。
②思考・判断・表現	事象の意味や意義、特色や相互の関連を、地理的な見方・考え方を働かせて多面的・多角的に考察したり、考察したことを効果的に説明し、議論できる。
③主体的に学習に取り組む態度	グローバル化が進み、国際理解の必要性が増している現代において、地理的な事象に自らが関心をもって学習に取り組むことができる。

(2) 評価の方法(以下観点①～③は「(1)評価の観点」と対応する。)

観点	学習到達度の確認方法	具体的取組および重要度				
		授業	課題提出	考査	小テスト	ワークシート
①知識・技能	考査及び小テスト、ワークシート	○		◎	◎	◎
②思考・判断・表現	ワークシート、考査	○	○	○		◎
③主体的に学習に取り組む態度	授業に積極的に取り組むことができたか、課題への取り組み具合	◎	◎			○

以上を総合的に判断して決定します。(◎はより重視される観点)

3 担当者から

「地理総合」で学んだ知識が身につけている前提で進めるため、授業の進度は速くなります。しかし、興味関心が高ければ問題ありません。リアルタイムで変化していく世界を「なぜ？」という好奇心を持った目で見えていくことが大切です。「なぜ？」から連想ゲームのようにイメージをふくらませることが探究につながり、知識を身につけることにもなります。予習よりも、授業で習った部分の復習に時間をかけて下さい。

4 年間指導計画

月	単元	授業 時数	項目・学習内容
4	自然環境 地形	9	オリエンテーション 地形の成因と地球表面の起伏 地球規模の大地形
5	気候	18	河川地形と海岸にみられる地形 そのほかの特徴的な小地形 気候の成り立ち 気候と生態系 世界の気候区分
6		16	さまざまな気候帯 気候変動と異常気象
7	日本の自然環境	6	日本の地形 日本の気候 開発に伴う災害と防災・減災の取り組み
8	地球環境問題	6	地球環境問題とは さまざまな地球環境問題 地球環境問題の解決に向けた取り組み
9	資源と産業 農林水産業	14	農業の発達と分布 農業の地域区分 現代世界の農業の現状と課題 日本の農業の現状と課題 世界と日本の林業 世界と日本の水産業
10	食料問題	13	世界の食料問題 日本の食料問題
	エネルギー・鉱産資源		エネルギー資源の種類と利用 化石燃料の分布と利用 電力の利用 鉱産資源の種類と利用
	資源・エネルギー問題		資源・エネルギーをめぐる問題 日本の資源・エネルギー問題
	工業		工業の発達と種類 工業の立地
11	第3次産業	15	世界の工業地域 現代世界の工業の現状と課題 工業の知識産業化とスタートアップ企業 日本の工業 経済発展と第3次産業 商業の現状と変化 商業以外のさまざまな第3次産業
	交通・通信と観光、貿易 交通・通信	15	世界を結ぶ交通 日本の交通の特徴 情報通信の発達
12	観光		余暇の拡大と観光産業 日本の観光とその変化
	貿易と経済圏		世界の貿易と地域間格差 貿易の自由化と経済連携 日本の貿易
	人口、村落・都市 人口	8	世界の人口 人口の移動
1	人口問題		世界の人口問題 日本の人口問題
	村落と都市		集落の成り立ち 村落の形態と機能 都市の成立と形態・機能 都市圏の拡大と都市の構造
	都市・居住問題	15	発展途上国の都市・居住問題 先進国の都市・居住問題 日本の都市・居住問題
2	生活文化、民族・宗教 衣食住	15	世界の衣服と食生活、住居 画一化
	民族・宗教と民族問題		世界の民族・言語 世界の宗教 さまざまな民族問題 多文化の共生に向けた取り組み
3	国家の領域と領土問題	5	現代世界と国家 領土問題と解決への取り組み 日本の領域と領土をめぐる問題
備考		140	

教科	地理歴史	科目名	歴史総合	単位数	2	開講対象 年次コース	1年次 必修
使用教科書		高等学校改訂版歴史総合					
副教材等							
備考(履修条件等)							

1 科目の学習到達目標

近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。

2 学習の評価(評価の観点及び評価方法)

(1) 評価の観点

観点	趣旨
①知識・技能	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解している。諸資料から歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけている。
②思考・判断・表現	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などに着目して、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりすることができる。考察、構想したことを効果的に説明したり、それを基に議論したりすることができる。
③主体的に学習に取り組む態度	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追及、解決しようとしている。

(2) 評価の方法(以下観点①～③は「(1)評価の観点」と対応する。)

観点	学習到達度の確認方法	具体的取組および重要度				
		授業	課題提出	考査	小テスト	ワークシート
①知識・技能	考査、小テスト	○		◎	○	
②思考・判断・表現	考査、ワークシート	○	○	○		◎
③主体的に学習に取り組む態度	授業に積極的に取り組むことができたか、課題への取り組み具合	◎	◎			◎

以上を総合的に判断して決定します。(◎はより重視される観点)

3 担当者から

歴史は、過去の出来事の記録ではありません。歴史は、今作られている出来事であり、未来へと繋がる出来事です。よりよい社会の実現を視野に、現代社会がかかえている課題を主体的に追及し、解決しようとする態度をもちながら、学習に取り組んでください。

4 年間指導計画

月	単元	授業 時数	項目・学習内容
4	第1編 近代化と私たち 第1章 近代化への胎動	1 1 1 1 1 1	オリエンテーション introduction 17世紀以前のアジアの繁栄とヨーロッパの海外進出 ヨーロッパの海外進出と市民社会 清の繁栄 東アジア諸国間の貿易 江戸時代の日本の対外政策
5	第2章 欧米の市民革命と国民国家の形成	1 1 1 1	江戸時代の社会と生活 introduction 17世紀以前のヨーロッパの主権国家体制 イギリス産業革命 アメリカ独立革命 フランス革命とナポレオン
6	第3章 アジアの変容と日本の近代化	1 1 1 1 1 1 1	ウィーン体制 19世紀のイギリスとフランス イタリア・ドイツの統一 東方問題と19世紀のロシア アメリカの発展と分裂 世界市場の形成 イスラーム世界の改革と再編
7		1 1 1 1 1	南アジア・東南アジアの改革と再編 アヘン戦争の衝撃 ゆらく幕藩体制 開国 幕末政局と社会変動
8		1 1 1	新政府の成立と諸改革 富国強兵と文明開化 近代的な国際関係と国境・領土の画定
9	第4章 帝国主義の時代	1 1 1 1 1	自由民権運動の高まり 立憲国家の成立 帝国主義と世界分割 帝国主義期の欧米社会 条約改正
10	第2編 国際秩序の変化や大衆化と私たち 第5章 第一次世界大戦と大衆社会	1 1 1 1 1 1 1	日清戦争 日露戦争から韓国併合へ 日本の産業革命と社会問題 アジア諸民族の独立運動・立憲革命 緊迫する国際関係 第一次世界大戦 ロシア革命とシベリア出兵 大戦景気と米騒動
11	第6章 経済危機と第二次世界大戦	1 1 1 1 1 1 1	ヴェルサイユ体制とワシントン体制 西アジア・南アジアの民族運動 戦間期の欧米 ひろがる社会運動と普通選挙の実現 政党内閣の時代 世界恐慌 ファシズムの時代
12		1 1 1 1 1 1	満州事変の軍部の台頭 日中戦争 第二次世界大戦とアジア太平洋戦争 戦争と民衆 敗戦 国際連合と戦後世界
1	第3編 グローバル化と私たち 第7章 冷戦と脱植民地化	1 1 1 1 1	戦後と占領の始まり 民主化と日本国憲法 冷戦の開始 朝鮮戦争と日本 冷戦対立の推移
2	第8章 多極化する世界	1 1 1 1 1 1	植民地の独立と第三世界の出現 米ソ両陣営の動揺 日本の国際社会復帰と高度経済成長 石油危機と世界経済 緊張緩和から冷戦の終結へ 地域協力の進展
3	第9章 グローバル化と現代世界	1 1 1 1	日本の経済大国化 冷戦体制の終結 地域紛争と世界経済 グローバル化な認識へ
		70 3	1年間の総まとめ
備考			

教科	地理歴史	科目名	日本史探究	単位数	4	開講対象 年次コース	2年次 文系 選択
使用教科書		詳説 日本史 (山川出版社)					
副教材等		図説 日本史通覧 (帝国書院) 要点整理ゼミナール日本史 (浜島書店)					
備考 (履修条件等)							

1 科目の学習到達目標

「歴史総合」の学習で得た歴史的な見方・考え方を活用し、先人たちが築いた歴史が、自分たちの生活にどのように関わっているかを歴史的視点に立って理解する能力を身に付け、探究する。

2 学習の評価(評価の観点及び評価方法)

(1) 評価の観点

観点	趣旨
①知識・技能	日本の暦との展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて総合的に理解し、その知識を身につける。
②思考・判断・表現	歴史的事象や構造に問題を見だし、分析したり、総合的に考えたりできる。また、それを適切に表現することができる。
③主体的に学習に取り組む態度	歴史的事象や現象に関心をもち、意欲的にそれらを探究する態度を身につける努力をしている。

(2) 評価の方法(以下観点①～③は「(1)評価の観点」と対応する。)

観点	学習到達度の確認方法	具体的取組および重要度				
		授業	課題提出	考査	小テスト	ワークシート
①知識・技能	考査、小テスト	○		◎	○	
②思考・判断・表現	考査、ワークシート	◎	○	○		○
③主体的に学習に取り組む態度	授業に積極的に取り組むことができたか、課題への取り組み具合	◎	◎			◎

以上を総合的に判断して決定します。(◎はより重視される観点)

3 担当者から

歴史は、過去の出来事の記録ではなく、今つくりられている出来事であり、未来へと繋がる出来事です。よりよい社会の実現を視野に、現代社会がかかえている課題を主体的に追及し、解決しようとする態度をもちながら、学習に取り組んでください。

4 年間指導計画

月	単元	授業 時数	項目・学習内容
4	第Ⅰ部 原始・古代 (1)日本文化のあけぼの ①文化のはじまり ②農耕社会の成立 (2)古墳とヤマト政権 ①古墳文化の展開	12	○原始社会の人々の生活の変化、ヤマト朝廷の統一にともなう古代国家の成立とその変化について、東アジアの世界の動きとも関連して考えていく。 ○自然環境や大陸からの文化の影響による生活の変化に着目して、旧石器文化から古墳文化の時代の社会について理解する。
5	②飛鳥の朝廷 (3)律令国家の形成 ①律令国家への道	11	○律令の確立の過程を、隋・唐など東アジア世界との交流に着目して古代国家の展開と文化の特色について学習する。
6	②平城京の時代 ③律令国家の文化 ④律令国家の変容	11	
7	(4)貴族政治の展開 ①摂関政治	8	
8	②国風文化 ③地方政治の展開と武士	12	○東アジア諸国の関係変化、荘園制度と公領の動き、武士の台頭など地方の動きに着目し、古代国家の変化と国風文化の特徴などを学ぶ。
9	第Ⅱ部 中世 (5)院政と武士の躍進 ①院政の始まり ②院政と平氏政権 (6)武家政権の成立 ①鎌倉幕府の成立	12	
10	②武士の社会 ③モンゴル来襲と幕府の衰退 ④鎌倉文化	14	
11	(7)武家社会の成長 ①室町幕府の成立 ②幕府の衰退と庶民の台頭 ③室町文化 ④戦国大名の登場	13	
12	第Ⅲ部 近世 (8)近世の幕開け ①織豊政権 ②桃山文化	12	
1	(9)幕藩体制の成立と展開 ①幕藩体制の成立 ②幕藩社会の構造 ③幕政の安定	12	○織豊政権、幕藩体制の特色やその変化について、社会や文化の動向や国際関係の変化と影響を考えながら理解する。 ○ヨーロッパ世界との接触とその影響、鎖国といわれる対外政策、織田・豊臣・徳川の支配体制や身分制度の確立について理解する。
2	④経済の発展 ⑤元禄文化 (10)幕藩体制の動揺	12	
3	①幕政の改革 ②宝暦・天明期文化 ③幕府の衰退と近代への道 ④化政文化	11	
	140		
備考			

教科	地理歴史	科目名	世界史探究	単位数	4	開講対象 年次コース	2年次 文系 選択
使用教科書		詳説 世界史探究(山川出版社)					
副教材等		世界史詳覧(浜島書店) 新世界史要点ノート応用編(啓隆社)					
備考(履修条件等)							

1 科目の学習到達目標

世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、授業を等して歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を身に付ける。

2 学習の評価(評価の観点及び評価方法)

(1) 評価の観点

観点	趣旨
①知識・技能	世界の歴史について関心を持ち、思考や表現などで積極的に授業に取り組むことができる。
②思考・判断・表現	歴史現象を、原因、経過、結果の一連の流れにおいて理解し、個別の歴史事象や各国の歴史の在り方が与えた影響について考察できる。また各国の歴史を縦軸とし、同時代史を横軸として、世界の歴史を広い視野で捉えることができ、それを適切に表現できる。
③主体的に学習に取り組む態度	歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追及、解決しようとしている。

(2) 評価の方法(以下観点①～③は「(1)評価の観点」と対応する。)

観点	学習到達度の確認方法	具体的取組および重要度			
		授業	課題提出	考査	
①知識・技能	考査、授業中の練習問題	○		◎	
②思考・判断・表現	考査、授業中の課題	◎	○	◎	
③主体的に学習に取り組む態度	授業に積極的に取り組むことができたか、課題への取り組み具合	◎	◎		

以上を総合的に判断して決定します。(◎はより重視される観点)

3 担当者から

世界史では人名や国名など、覚えておくべき知識はたくさんありますが、用語の暗記に終始する学習方法では歴史を理解することができません。時代の流れ(縦のつながり)と、国や地域どうしの関係(横のつながり)を意識して、断片的な知識を結び付けて多面的に考える思考力を身につけましょう。

4 年間指導計画

月	単元	授業 時数	項目・学習内容
4	1章 オリентと地中海世界	3 3 4	1 古代オリент世界 2 ギリシア世界 3 ローマ世界
5	2章 アジア・アメリカの古代文明	3 2 4 3 3	1 インドの古典文明 2 東南アジアの諸文明 3 中国の古典文明 4 南北アメリカ文明
6	3章 内陸アジア世界・東アジアの形成	4 5 4	1 草原の遊牧民とオアシスの定住化 2 北方民族の活動と中国の分裂 3 東アジア文化圏の形成
7	4章 イスラーム世界の形成と発展	4 4 4 2	1 イスラーム世界の形成 2 イスラーム世界の発展 3 インド・東南アジア・アフリカのイスラーム化 4 イスラーム文明の発展
8	5章 ヨーロッパ世界の形成と発展	3 3 2 2	1 西ヨーロッパ世界の成立 2 東ヨーロッパ世界の成立 3 西ヨーロッパ中世世界の変容 4 西ヨーロッパの中世文化
9	6章 内陸アジア世界・東アジア世界の発展	4 4 4	1 トルコ化とイスラーム化の進展 2 東アジア諸地域の自立化 3 モンゴル大帝国
10	7章 アジア諸国の地域の繁栄	4 4 3 3	1 東アジア世界の動向 2 清代の中国と隣接諸地域 3 トルコ・イラン世界の展開 4 ムガル帝国の興隆と東南アジア交流の発展
11	8章 近代ヨーロッパ世界の形成	3 3 3 4	1 ヨーロッパ世界の拡大 2 ルネサンス 3 宗教革命 4 ヨーロッパ諸国の抗争と主権国家体制の形成
12	9章 近世ヨーロッパ世界の発展	3 3 4	1 重商主義と啓蒙専制主義 2 ヨーロッパ諸国の海外進出 3 17～18世紀ヨーロッパの文化と社会
1	10章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	4 5 5	1 産業革命 2 アメリカ独立革命 3 フランス革命とナポレオン
2	11章 欧米における近代国民国家の発展	3 3 2 2	1 ウィーン体制の成立 2 ヨーロッパの再編と新統一国家の誕生 3 南北アメリカの発展 4 19世紀欧米の文化
3	12章 アジア諸地域の動揺	2 3 3	1 オスマン帝国支配の動揺と西アジア地域の変容 2 南アジア・東南アジアの植民地化 3 東アジアの激動
備考		140	

教科	地理歴史	科目名	世界史探究Ⅱ (現代史)	単位数	2	開講対象 年次コース	3年次 文系 選択
使用教科書		世界史探究 新世界史(山川出版社)					
副教材等		世界史詳覧(浜島書店) 新世界史要点ノート応用編(啓隆社)					
備考(履修条件等)							

1 科目の学習到達目標

世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、授業を等して歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を身に付ける。

2 学習の評価(評価の観点及び評価方法)

(1) 評価の観点

観点	趣旨
①知識・技能	世界の歴史について関心を持ち、思考や表現などで積極的に授業に取り組むことができる。
②思考・判断・表現	歴史現象を、原因、経過、結果の一連の流れにおいて理解し、個別の歴史事象や各国の歴史の在り方が与えた影響について考察できる。また各国の歴史を縦軸とし、同時代史を横軸として、世界の歴史を広い視野で捉えることができ、それを適切に表現できる。
③主体的に学習に取り組む態度	歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追及、解決しようとしている。

(2) 評価の方法(以下観点①～③は「(1)評価の観点」と対応する。)

観点	学習到達度の確認方法	具体的取組および重要度			
		授業	課題提出	考査	
①知識・技能	考査、授業中の練習問題	○		◎	
②思考・判断・表現	考査、授業中の課題	◎	○	◎	
③主体的に学習に取り組む態度	授業に積極的に取り組むことができたか、課題への取り組み具合	◎	◎		

以上を総合的に判断して決定します。(◎はより重視される観点)

3 担当者から

世界史では人名や国名など、覚えておくべき知識はたくさんありますが、用語の暗記に終始する学習方法では歴史を理解することができません。時代の流れ(縦のつながり)と、国や地域どうしの関係(横のつながり)を意識して、断片的な知識を結び付けて多面的に考える思考力を身につけましょう。

4 年間指導計画

月	単元	授業 時数	項目・学習内容
4	帝国主義とアジアの民族運動	4	帝国主義と列強の展開 世界分割と列強の対立 アジア諸国の改革と民族運動
5	2つの世界大戦	8	第一次世界大戦とロシア革命 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 アジア・アフリカ地域の民族運動
6	2つの世界大戦	9	世界恐慌とファシズム諸国の侵略 第二次世界大戦
7	冷戦と第三世界の独立	14	戦後世界秩序の形成とアジア諸地域の独立 米ソ冷戦の激化と西欧・日本の経済復 第三世界の台頭と米・ソの歩み寄り 石油危機と世界経済の再編
8 9	現在の世界	9	社会主義世界の変容とグローバリゼーション 途上国の民主化と独裁政権の動揺 地域紛争の激化と深刻化する貧困
10	現在の世界	4	現代文明の諸相
11	受験対策演習	7	過去の共通試験問の解説 新傾向問題対策の解説
12 1	受験対策演習	5	過去の共通試験問の解説 新傾向問題対策の解説
2			
3			
		60	
備考			

教科	地理歴史	科目名	世界史研究 (国際関係史)	単位数	2	開講対象 年次コース	3年次 文系 選択
使用教科書		世界史探究 新世界史(山川出版社)					
副教材等		世界史詳覧(浜島書店) 新世界史要点ノート応用編(啓隆社) 共通テスト実カトレーニング世界史(啓隆社)					
備考(履修条件等)		2年次で「世界史探究」を履修していること					

1 科目の学習到達目標

世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、授業を等して歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を身に付ける。

2 学習の評価(評価の観点及び評価方法)

(1) 評価の観点

観点	趣旨
①知識・技能	世界の歴史について関心を持ち、思考や表現などで積極的に授業に取り組むことができる。
②思考・判断・表現	歴史現象を、原因、経過、結果の一連の流れにおいて理解し、個別の歴史事象や各国の歴史の在り方が与えた影響について考察できる。また各国の歴史を縦軸とし、同時代史を横軸として、世界の歴史を広い視野で捉えることができ、それを適切に表現できる。
③主体的に学習に取り組む態度	歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追及、解決しようとしている。

(2) 評価の方法(以下観点①～③は「(1)評価の観点」と対応する。)

観点	学習到達度の確認方法	具体的取組および重要度			
		授業	課題提出	単元テスト	
①知識・技能	単元テスト、授業中の練習問題	○		◎	
②思考・判断・表現	授業中の課題、単元テスト	◎	◎	○	
③主体的に学習に取り組む態度	授業に積極的に取り組むことができたか、課題への取り組み具合	◎	◎		

以上を総合的に判断して決定します。(◎はより重視される観点)

3 担当者から

「歴史総合」や「世界史探究」で学んだ知識が身についている前提で進めるため、授業の進度は速くなります。演習をメインとしますので適宜復習をしながら知識を蓄え、考える力を身につけていきましょう。

4 年間指導計画

月	単元	授業 時数	項目・学習内容
4	オリエンテーション 時代別	6	先史の世界とオリエント世界 ギリシア・ヘレニズム世界 ローマ世界 キリスト教とローマ文化 古代インド 東南アジア諸文明 中国古典文明 南北アメリカ文明
5		6	内陸アジア世界 東アジア世界の形成 イスラーム世界の形成と発展 イスラーム文化 ヨーロッパ世界の形成と発展 中世都市の発達 西ヨーロッパ世界の変容 西ヨーロッパの中世文化
6		7	トルコ化とイスラーム化 宋と周辺地域 モンゴルの大帝国 明清時代の東アジア トルコ・イラン・インド世界 ルネサンス ヨーロッパの海洋進出 宗教改革
7		3	ヨーロッパ主権国家体制の形成 イギリス立憲政治 ヨーロッパの植民活動
8		5	17～18世紀のヨーロッパ文化 産業革命 アメリカ独立革命 フランス革命とナポレオン時代 近代国民国家の形成 科学革命と市民文化
9		7	アジア諸国の動揺 帝国主義と民族運動 第一次世界大戦とロシア革命 1920～30年代の世界情勢 ファシズムと第二次世界大戦 戦後世界と東西対立 現代の世界
10	テーマ別	7	制度史 社会経済史 民族・宗教 移民 建築物 文化史 地図 文学史料 年代配列
11		10	
12	演習	8	1年間のまとめ
1		1	
2			
3		60	
備考			

教科	地理歴史	科目名	日本史探究Ⅱ (日本外交史)	単位数	2	開講対象 年次コース	3年次 文系 選択
使用教科書		詳説 日本史 (山川出版社)					
副教材等		図説 日本史通覧 (帝国書院) 要点整理ゼミナール日本史 (浜島書店)					
備考(履修条件等)		2年次で「日本史探究」を履修していること。					

1 科目の学習到達目標

「歴史総合」「日本史探究」の学習で得た歴史的な見方・考え方を活用し、近現代の歴史的な動きが自分たちの生活にどのように関わっているかを歴史的視点に立って理解する能力を身に付け、探究する。

2 学習の評価(評価の観点及び評価方法)

(1) 評価の観点

観点	趣旨
①知識・技能	日本の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて総合的に理解し、その知識を身につける。
②思考・判断・表現	歴史的な事象や構造に問題を見だし、分析したり、総合的に考えたりできる。また、それを適切に表現することができる。
③主体的に学習に取り組む態度	歴史的な事象や現象に関心を持ち、意欲的にそれらを探究する態度を身につける努力をしている。

(2) 評価の方法(以下観点①～③は「(1)評価の観点」と対応する。)

観点	学習到達度の確認方法	具体的取組および重要度				
		授業	課題提出	考査	小テスト	ワークシート
①知識・技能	考査、小テスト	○		◎	○	
②思考・判断・表現	考査、ワークシート	◎	○	○		○
③主体的に学習に取り組む態度	授業に積極的に取り組むことができたか、課題への取り組み具合	◎	◎			◎

以上を総合的に判断して決定します。(◎はより重視される観点)

3 担当者から

歴史は、過去の出来事の記録ではなく、今つくられている出来事であり、未来へと繋がる出来事です。よりよい社会の実現を視野に、現代社会がかかえている課題を主体的に追及し、解決しようとする態度をもちながら、学習に取り組んでください。

4 年間指導計画

月	単元	授業 時数	項目・学習内容
4	第Ⅳ部 近代・現代 (11) 近世から近代へ ① 開国と幕末の動乱 ② 幕府の滅亡と新政府の発足	6	開国以前と以後の日本を比較し、明治維新を経て近代日本が急速に形成された過程を国際環境と関連して考察する。 産業、学問、思想、教育における近代の萌芽や欧米諸国のアジア進出に着目して幕藩体制が崩れる過程を理解する。 明治維新から自由民権運動を経て、立憲政治体制が成立するまでの過程を理解する。
5	(12) 近代国家の成立 ① 明治維新と富国強兵 ② 立憲国家の成立	8	
6	(13) 近代国家の成立 ① 日清・日露戦争と国際関係 ② 第一次世界大戦と日本	8	諸国間の対立や協調関係と日本の立場や国内の経済・社会の動向、アジア近隣諸国とその関係に着目して、2つの世界大戦とその間の内外情勢の変化について理解する。 日本の侵略がアジアに残した負の遺産と、日本への抵抗運動から発展した独立運動を関連付けて考察する。
7	③ ワシントン体制 (14) 近代の産業と生活 ① 近代産業の発展 ② 近代文化の発達 ③ 市民生活の変容と大衆社会	8	
8	(15) 恐慌と第二次世界大戦 ① 恐慌の時代 ② 軍部の台頭	7	第二次世界大戦後の民主化と復興、国際社会への復帰、経済の発展と現代の日本について、世界の動向と関連付けて考察するとともに、わが国の課題と役割について認識する。
9	③ 第二次世界大戦 (16) 占領下の日本 ① 占領と改革 ② 冷戦の開始と講和	7	
10	(17) 高度成長の時代 ① 55年体制 ② 経済復興から高度経済成長へ	7	
11	(18) 激動する世界と日本 ① 経済大国への道 ② 冷戦の終結と日本社会の変容	3	
12	演習	5	1年間のまとめ
1		1	
2			
3		60	
備考			

教科	地理歴史	科目名	日本史研究 (日本文化史)	単位数	2	開講対象 年次コース	3年次 文系 選択
使用教科書		詳説 日本史 (山川出版社)					
副教材等		図説 日本史通覧 (帝国書院)					
備考(履修条件等)		2年次で「日本史探究」を履修していること。					

1 科目の学習到達目標

「歴史総合」「日本史探究」の学習で得た歴史的な見方・考え方を活用し、近現代の歴史的な動きが自分たちの生活にどのように関わっているかを歴史的視点に立って理解する能力を身に付け、探究する。

2 学習の評価(評価の観点及び評価方法)

(1) 評価の観点

観点	趣旨
①知識・技能	日本の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて総合的に理解し、その知識を身につける。
②思考・判断・表現	歴史的事象や構造に問題を見だし、分析したり、総合的に考えたりできる。また、それを適切に表現することができる。
③主体的に学習に取り組む態度	歴史的事象や現象に関心を持ち、意欲的にそれらを探究する態度を身につける努力をしている。

(2) 評価の方法(以下観点①～③は「(1)評価の観点」と対応する。)

観点	学習到達度の確認方法	具体的取組および重要度			
		授業	課題提出	単元テスト	ワークシート
①知識・技能	単元テスト	○		◎	
②思考・判断・表現	単元テスト、ワークシート	◎	○	○	○
③主体的に学習に取り組む態度	授業に積極的に取り組むことができたか、課題への取り組み具合	◎	◎		◎

以上を総合的に判断して決定します。(◎はより重視される観点)

3 担当者から

「歴史総合」や「日本史探究」で学んだ内容が身につけていることを前提としながら授業を進めていくため復習は必ずしておくようにしてください。演習をメインとしますので適宜復習をしながら知識を蓄え、考える力を身につけていきましょう。

4 年間指導計画

月	単元	授業 時数	項目・学習内容
4 5	○原始・古代	7	日本文化のあけぼの 律令国家の形成 貴族政治と国風文化
6 7	○中世	10	中世社会の成立 武家社会の成長
8 9 10	○近世 幕藩体制の確立期 幕藩体制の展開期	15	幕藩体制の確立 幕藩体制の展開 幕藩体制の動揺 幕府の衰退
11 12	○近代・現代 明治国家の成立期 明治国家の発展期・崩壊期	15	近代国家の成立 近代日本とアジア 恐慌の時代 日中戦争から太平洋戦争へ
1	戦後の日本と世界	13	占領と日本の民主化 冷戦の開始と講和 55年体制 経済復興から高度成長へ 経済大国への道
2			
3		60	
備考			

教科	地理歴史	科目名	地理探究Ⅱ (世界の地誌)	単位数	2	開講対象 年次コース	3年次 文系 選択
使用教科書		新詳 地理探究(帝国書院)、新詳高等地図(帝国書院)					
副教材等		新詳地理資料COMPLETE コンパスノート					
備考(履修条件等)		2年次で「地理探究」を履修していること					

1 科目の学習到達目標

「地理総合」や「地理探究」の学習によって身に付けた資質・能力を基に、系統地理的な考察、地誌的な考察によって習得した知識や概念を活用して、現代世界に求められるこれからの日本の国土像を探究する。

2 学習の評価(評価の観点及び評価方法)

(1) 評価の観点

観点	趣旨
①知識・技能	世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性、諸地域の特色や課題などを理解するとともに、地図や地理情報システムを用いて地理情報を調べまとめる技能を身に付ける。
②思考・判断・表現	事象の意味や意義、特色や相互の関連を、地理的な見方・考え方を働かせて多面的・多角的に考察したり、考察したことを効果的に説明し、議論できる。
③主体的に学習に取り組む態度	グローバル化が進み、国際理解の必要性が増している現代において、地理的な事象に自らが関心をもって学習に取り組むことができる。

(2) 評価の方法(以下観点①～③は「(1)評価の観点」と対応する。)

観点	学習到達度の確認方法	具体的取組および重要度				
		授業	課題提出	考査	小テスト	ワークシート
①知識・技能	考査及び小テスト、ワークシート	○		◎	◎	◎
②思考・判断・表現	ワークシート、考査	○	○	○		◎
③主体的に学習に取り組む態度	授業に積極的に取り組むことができたか、課題への取り組み具合	◎	◎			○

以上を総合的に判断して決定します。(◎はより重視される観点)

3 担当者から

「地理総合」や「地理探究」で学んだ知識が身についている前提で進めるため、授業の進度は速くなります。しかし、興味関心が高ければ問題ありません。リアルタイムで変化していく世界を「なぜ？」という好奇心を持った目で見ていくことが大切です。「なぜ？」から連想ゲームのようにイメージをふくらませることが探究につながり、知識を身につけることにもなります。予習よりも、授業で習った部分の復習に時間をかけて下さい。

4 年間指導計画

月	単元	授業時数	項目・学習内容
4	現代世界の諸地域 中国	6	オリエンテーション 中国の自然環境 中国の政治体制と多様な民族 中国の食生活と農業・水産業 中国の工業化と海外進出 経済発展に伴うさまざまな課題
	韓国		韓国の自然環境 韓国の歴史と生活文化 産業の発展と生活の変化
5	ASEAN諸国	8	東南アジアの自然環境 ASEAN諸国の歴史と文化・民族 ASEAN諸国の農業とその変化 ASEAN諸国の工業とその発展 ASEANの変化と課題
	インド		南アジアの自然環境 急速な経済成長を支えた産業の発展 増加する人口と農村の変化 インド社会の変化と経済格差の拡大
6	西アジアと中央アジア	9	西アジアと中央アジアの自然環境 イスラームと人々の生活文化 交易の歴史と乾燥地域の農業 豊富な資源を生かして進められる開発
	北アフリカとサハラ以南アフリカ		アフリカの自然環境 歴史的な背景によって形成された多様な文化 他地域との結びつきと人々の生活の変化 一次産品への依存とそれがもたらす課題
7	EU諸国	3	ヨーロッパの自然環境
8		4	EUの成り立ちと結びつき ヨーロッパの多様な農業と政策 移り変わるEUの工業 EU拡大による影響と課題
9	ロシア	6	ロシアの自然環境 ロシアの成り立ちと体制変化 体制変化が産業にもたらした影響と課題
	アメリカ合衆国		アングロアメリカの自然環境 移民国家としてのアメリカ合衆国の発展 世界の食料生産の鍵を握るアメリカ合衆国 進展する科学技術と産業 多民族社会と移民増加に伴う課題
10	ラテンアメリカ	8	ラテンアメリカの自然環境 ヨーロッパの影響が強い社会 大土地所有制と農業の変化 工業化の進展と経済発展
11	オーストラリアとニュージーランド	9	オセアニアの自然環境 移民の歴史と多文化社会 自然の恵みを生かして発達した産業 強まるアジア・太平洋圏との結びつき
12	演習	6	1年間のまとめ
1		1	
2			
3		60	
備考			

教科	地理歴史	科目名	地理研究 (統計の地理学)	単位数	2	開講対象 年次コース	3年次 文系 選択
使用教科書		新詳 地理探究(帝国書院) 新詳高等地図(帝国書院)					
副教材等		ウィニングコンパス地理の整理と演習 地理統計Plus					
備考(履修条件等)		2年次で「地理探究」を履修していること。					

1 科目の学習到達目標

「地理総合」や「地理探究」の学習によって身に付けた資質・能力を基に、系統地理的な考察、地誌的な考察によって習得した知識や概念を活用して、現代世界に求められるこれからの日本の国土像を探究する。

2 学習の評価(評価の観点及び評価方法)

(1) 評価の観点

観点	趣旨
①知識・技能	世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性、諸地域の特色や課題などを理解するとともに、地図や地理情報システムを用いて地理情報を調べまとめる技能を身に付ける。
②思考・判断・表現	事象の意味や意義、特色や相互の関連を、地理的な見方・考え方を働かせて多面的・多角的に考察したり、考察したことを効果的に説明し、議論できる。
③主体的に学習に取り組む態度	グローバル化が進み、国際理解の必要性が増している現代において、地理的な事象に自らが関心をもって学習に取り組むことができる。

(2) 評価の方法(以下観点①～③は「(1)評価の観点」と対応する。)

観点	学習到達度の確認方法	具体的取組および重要度			
		授業	課題提出	単元テスト	
①知識・技能	単元テスト	○		◎	
②思考・判断・表現	授業中の課題、単元テスト	○	◎	○	
③主体的に学習に取り組む態度	授業に積極的に取り組むことができたか、課題への取り組み具合	◎	◎		

以上を総合的に判断して決定します。(◎はより重視される観点)

3 担当者から

「地理総合」や「地理探究」で学んだ知識が身につけている前提で進めるため、授業の進度は速くなります。演習をメインとしますので適宜復習をしながら知識を蓄え、考える力を身につけていきましょう。とにかく授業を大切にしてください。

4 年間指導計画

月	単元	授業 時数	項目・学習内容
4	さまざまな地図と地理的技 能	6	地図・地理情報
5	現代世界の系統地理・諸課 題	6	地形 気候・水 環境問題 農林水産業
6		7	鉱工業 消費・観光・世界遺産 交通・通信・貿易
7		3	人口・人口問題
8		5	村落・都市 生活文化・民族・宗教 国家・領域・国家群
9		7	日本 東アジア 東南アジア 南アジア 中央アジア・西アジア・アフリカ
10	7	ヨーロッパ・ロシア アングロアメリカ ラテンアメリカ オセアニア 極地方	
11	10	比較地誌 地形図の読図 新傾向・融合問題	
12	演習	8	1年間のまとめ
1		1	
2			
3		60	
備考			